

平成 24 年 3 月 29 日

国際石油開発帝石株式会社
JX 日鉱日石エネルギー株式会社
石油資源開発株式会社
コスモ石油株式会社
新日鉄エンジニアリング株式会社
千代田化工建設株式会社
日本 GTL 技術研究組合

GTL 実証研究終了について

－商業規模での国産 GTL 技術を確立－

国際石油開発帝石株式会社(社長:北村 俊昭)、JX 日鉱日石エネルギー株式会社(社長:木村 康)、石油資源開発株式会社(社長:渡辺 修)、コスモ石油株式会社(社長:木村 彌一)、新日鉄エンジニアリング株式会社(社長:高橋 誠)、千代田化工建設株式会社(社長:久保田 隆)の民間 6 社は、平成 18 年 10 月に日本 GTL 技術研究組合(理事長:松村 幾敏)を設立し、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(理事長:河野博文、以下「JOGMEC」)と共同で、日本独自の GTL(天然ガスの液化燃料化、Gas-To-Liquids の略)技術である JAPAN-GTL プロセスの商業規模での技術の確立に向け、6 カ年に亘り「JAPAN-GTL 実証研究」を実施してまいりました。

このたび、本実証研究における全ての研究目標を達成し、商業規模で利用可能な国産 GTL 技術を確立することができました。

本実証研究におきましては、平成 19 年 9 月より新潟市東港工業団地において、日産 500 バレル(約 80 キロリットル)の GTL 実証試験設備の建設を開始し、1 年半の期間を経て完成後、平成 21 年 4 月より運転を開始、平成 23 年 12 月までの約 3 年間におきまして約 11,000 時間の実証運転により、プロセス並びに触媒の十分な性能を確認・実証すると共に、目標とした 3,000 時間以上の連続運転を安定的に実施いたしました。

これと並行して、バックアップ研究として触媒並びにプロセスのさらなる改良、大規模商業プラントに向けたスケールアップ手法の確立を行うと共に、実証運転で得られた GTL 製品の性能試験、東京都の路線バスを用いた GTL 軽油 100%による約 3 ヶ月半の走行試験等を行い、JAPAN-GTL 技術により製造した製品が、クリーンな燃料として問題なく利用できることを確認しております。

また、GTL プラントのコスト評価を行うと共に、GTL 製品の市場調査、適用可能なガス田の調査、経済性評価等を行い、JAPAN-GTL プロセスが経済的にも適用可能で競争力のある天然ガス有効利用技術であるとの評価結果を得ております。

JAPAN-GTL プロセスは、炭酸ガスを含有する天然ガスをそのまま利用することが可能な世界初の画期的な技術です。本技術により、世界に広く賦存する、天然ガス、シェールガス等から、硫黄分及び芳香族を含んでいないクリーンなナフサ・灯油等の石油製品を製造することが出来るようになり、新たな液体燃料資源確保の道を開くとともに、エネルギー安全保障に貢献することになると考えております。

我々は、研究期間を通して産ガス国政府や国営石油会社、ガス権益保有会社等に対し、事業化に向けPR活動を行い、この内複数の政府・企業他と共同スタディを実施してきております。研究終了後も引き続き、日本のエネルギーの安定供給と地球環境との調和の実現に向け取り組んでまいります。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

国際石油開発帝石株式会社	広報グループ	03-5572-0233
JX日鉱日石エネルギー株式会社	ENEOS お客様センター	0120-56-8704
石油資源開発株式会社	広報IR部	03-6268-7110
コスモ石油株式会社	コーポレートコミュニケーション部	03-3798-3101
新日鉄エンジニアリング株式会社	総務部広報室	03-6665-2366
千代田化工建設株式会社	IR・広報室	045-506-7538
日本 GTL 技術研究組合	業務部	03-3539-5115